

6 学年児童・保護者様

(文面は児童宛に書かせていただきました。ご了承ください。)

神科小学校長 清水秀昭

修学旅行中止のお知らせ

去る8月21日の学年集会で、私から6年生の皆さんに向けて、「修学旅行の実施について」の話をしました。その中で、今後の見通しとして次の2点をお話しました。

- ① 現在、長野県の新型コロナウイルス感染警戒レベルが2となっており、このままレベルが下がらない場合は、宿泊を伴った修学旅行はできない。
- ② 長野県のレベルが2であっても、直近の週平均新規感染者が1.2人未満であれば、日帰り旅行はできる。(1.2人を超えるとレベル3になる)

長野県の感染警戒レベルがレベル2となった8月4日以来、感染の拡大がおさまることを願ってききましたが、皆さんも知っての通り、お盆明けから県内も上田市内も感染者が増えてきました。更に21日以降は、私たちの願いとは裏腹に感染者は増え続け、25日発表の長野県の週平均新規感染者数は1.66人となり、とうとう「②の日帰り旅行」もできない状況となりました。

それでも9月の実施はひとまず見送り、感染拡大がおさまった頃にもう一度計画をする、ということも考えてみましたが、神科小学校のような大きな学校は、見学場所との打ち合わせやバスの手配など何ヶ月も前から準備を進めなければできません。今年のような状況の中では、これはとても無理なことです。従って本当に残念で悔しい思いですが、本年度の修学旅行は行わないこととします。

(これ以降は、6年生に向けた私の思いです。)

新型コロナウイルスの影響は、約3ヶ月間の休校だけにとどまらず、あなたたち6年生にとって大切な児童会行事や学年の活動をことごとく奪ってきました。

そのことを知っているからこそ私や6年の先生方も、なんとか日帰り旅行は実現させたい、そして6年生を喜ばせ、元気づけたいと願ってきました。しかし、「日帰り旅行をやります」と自信を持って約束することもできません。学年集会では、とにかく皆さんを励まして、元気づけなければならない、そんなことを強く思っていました。

でもやっぱりきっと、がっかりしたり、気落ちしたりするだろうなあ…。そんな風に思い、その日の放課後、学年の先生に皆さんの様子をたずねてみました。すると、先生たちが思うほど皆さんはがっかりしたり、落ち込んだりはしていないとのこと。むしろ、旅行が中止になった後のことを考えて、一学期に学習した「楽しみは…」から始まる短歌になぞらえ、小学校生活残りの7ヶ月でできそうな、次の「楽しみ」を見つけようとしているということでした。

『なんて明るく、前向きな6年生なんだろう。この6年生のおかげで決断ができる。』

その時、私は心の底からそんな風に、皆さんに感謝しました。

それまでの私は、「感染がおさまること」にわずかな望みを託していました。でも、それは本当にわずかな望みです。そこに望みを託すより、

『私たちがこれから考えること、やろうとすることを聞いて、そして見てください。』

そう言っている6年生に望みを託す方が、よっぽど前向きで明るいじゃないか！そう思ったのです。修学旅行中止の決定は、確かに残念で悔しいことです。でも、あなたたちだったら、それに替わる大きな大きな思い出や財産をきっと手に入れることができる。そう思っています。